

☆五月―憲法月間に思う

―いま憲法を変える必要があるのか―

改元行事で影が薄くなった憲法月間

◆五月一日、天皇の譲位が行われ元号が平成から令和になりました。この事についてはさまざまな評価や意見がありましたが、際だったのがそのフイーバーぶり報道の過熱ぶりでした。

◆その中で違和感を感じたのは、「平成最後の」とか「令和最初の」といった、まるでこの世の中がすっかり変わってしまうかの様な報道でした。一方、それが変わってしまったら、文字どおり世の中が変わってしまう要素を持つ憲法についての報道があまりにも少なかったのではないのでしょうか。

例えば憲法第9条が変わってしまったら

◆二〇一五年、政権は集団的自衛権行使の解釈を変えて、日本が他国から攻撃されていなくても、同盟国から要請があれば海外に出て行って、同盟国と一体になつて戦争に参加する仕組みを作ってしまった。いわゆる新安保法です。私たちはこれは明らかに現憲法に違反すると思います。

◆そして、現政権はこれを正当化するために、9条第2項に自衛隊の存在を明記し、第2項を骨抜きにして、堂々と戦争のできる憲法に変えようとしています。これこそ、世の中ががらりと変わることにつながりませんか？

◆この様な重大なことが、今年の憲法記念日にはほとんど議論されず、あまり報道もされませんでした。憲法などには無関心で浮き足立った十連休でした。

七月選挙前に何が起こるか

◆この浮き足だった国民の姿は3分の2の改憲勢力を持つている現政権を利することになります。国民が無関心なうちに七月の参院選の前までに憲法改正の道筋（発議）を付けてしまうという現政権の可能性がゼロとは言いきれません。

◆そして、選挙に有利だとみれば、衆議院も同時に解散して選挙を行う可能性も取り沙汰されています。総選挙には七百億円以上の税金が使われるといわれています。経済の低迷が続いているのに、国民の税金を湯水のように使って衆議院まで解散選挙をするなどというのは正気の沙汰ではありません。

優先事項は平和と生活の安定

◆国民の幸福を考えるなら、まず戦争をしない国作りと生活の安定ではありませんか。私たち浜松市憲法を守る会は、憲法を変える必要は全くないし、変えてはならないと考えます。

二〇一九年五月十二日（日）護憲平和行進（通算627回目）
★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五
★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



憲法9条は
私たちの**平和**です

